

# 平成28年度 学校評価（自己評価）

## 1. 基本目標・基本方針

<p>豊かな心を持つ たくましい人                  一人ひとりの人間性を大切に、心と体の健全な育成を目指す                  ころづくり 情緒が安定し、清く正しく美しいものに感動し、やさしく思いやりのある子                  からだづくり おてつだいやしごとにがんばり、体をきたえる子                  あたまづくり 自分からすすんで励み、独創性のある子                  なかまづくり 「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える仲間づくりのできる子                  豊かな感性 自ら作り出したり工夫したり、あそびを発展させ友だちづくりのできる感性豊かな子                  逞しい意欲 主体的にあそびに取り組み、努力しがんばる喜びを感じ取るたくましい意欲のある子                  基本的生活習慣 基本的な社会生活習慣・態度が身についた子</p>
---

## 2. 学校評価の具体的な目標および計画

<p>子どもが主役の幼稚園                  一人ひとりを大切にする保育                  意欲・主体性を引き出し、「生きる力」を育てる保育                  具体的な生活体験のある保育                  園の職員が全体でかかわるチーム保育                  子育て支援を含め地域に根ざした保育</p>
---

## 3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目		結果	理由
<b>1 教育課程・指導</b>			
1-1	教育目標に基づいた年間指導計画や週案などの作成の状況	B	教育目標に基づき、年間指導計画及び教育課程を作成し、そのねらいや内容に沿った週案を作成している。
1-2	教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況	B	様々な研修会に参加し、幼稚園教育要領に沿い、幼児の発達に合わせた指導を行っている。
1-3	教育活動の進捗状況や子どもの姿について、教職員の情報共有の状況	B	園内研修会、職員会、毎日の終礼などを通し、教職員間で情報を共有・交流している。後々振り返ることができるように、打合せの記録を残している。
1-4	幼児に適した環境の整備状況	B	満3歳児から5歳児の幼児に適した環境を整備している。
1-5	幼小連携の円滑な接続に関する工夫の状況	A	小学校参観などを通して、就学した子どもの様子を見守るとともに、スムーズな就学に向けて、幼稚園参観や小学校訪問などを通して、小学校教諭と連携している。
<b>2 保健管理</b>			
2-1	家庭や地域の保健・医療機関等との連携の状況	B	保健所等からの通達事項を家庭を伝えるだけでなく、ほげんだより等で家庭へ健康に対する注意喚起を行っている。
2-2	学校保健計画の作成・実施の状況	C	学校保健計画を作成し、その計画に基づき保健管理を行っているが、実態に基づく計画の見直しが必要である。
2-3	日常の健康観察や、疾病予防の取組、健康診断の実施状況	B	ひとりひとりの子どもの様子を観察し、心身の健康を意識するとともに、毎月の身長体重測定で発育を把握している。6月に内科・歯科検診を行った。年間を通して子どもたちに手洗い・うがいを促すとともに、弱酸性次亜塩素酸水スプレーによる消毒を行っている。

評価項目		結果	理由
<b>3 安全管理</b>			
3-1	事故等の緊急事態発生時の対応の状況	B	緊急事態発生時の伝達経路を明確にし、事故記録を保存し再発防止に取り組んでいる。AEDを設置し、緊急時に使用できる状態であることを毎日確認している。
3-2	家庭や地域の関係機関、団体との連携の状況	B	地域の関係機関からの不審者情報や不審電話情報等を、連絡メールを通してスムーズに家庭へ伝達している。
3-3	学校安全計画・学校防災計画などの作成・実施の状況	B	学校安全計画・学校防災計画を作成し、その計画に基づき避難訓練などの安全管理を行っている。
3-4	危機管理マニュアルなどの作成・活用の状況	B	危機管理体制図を年度毎に確実に更新して掲示し、万一の事態にスムーズな連携が取れるようにしている。
3-5	遊具の安全点検計画などの作成・実施や、安全対応能力の向上の取組状況	B	安全点検計画に基づき、学期毎に遊具の総点検を行っている。また、子どもたちの遊び方の指導を適時行っている。
<b>4 特別支援教育</b>			
4-1	特別支援機関などとの連携の状況	B	特別支援機関の職員と打合せ・幼稚園訪問を行い、支援の方向性を相互に確認し、支援計画に反映・子どもの支援をしている。
4-2	個別の指導計画や教育支援計画の作成の状況	B	特別支援を要する子どもに個別支援計画書を作成し、学期毎に支援実施評価を行い、今後の支援に活かしている。
4-3	家庭との連携状況	B	家庭訪問や個人面談等を通し、幼稚園での様子や家庭で気になること、できるようになったことなどを保護者と話し、今後の支援に活かしている。
<b>5 組織運営</b>			
5-1	管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況	B	管理職向けの研修会に積極的に参加し、管理職としての資質を研鑽している。
5-2	役職・園内分掌などの役割が機能しているか、責任体制の整備の状況	B	園長・副園長・主任（主幹教諭）・年児主任（指導教諭）の役職を明確にするとともに、環境や視聴覚、研修などの各委員を組織し整備している。
5-3	学校の財務運営、勤務時間管理、サービス監督などの状況	B	公認会計士が財務状況等の確認・監査を行い、指摘事項を学校運営に反映している。社会保険労務士の指導に沿って、労務管理を適切に行っている。
5-4	個人情報などの学校が保有する情報の管理や、取扱方針の周知の状況	B	個人情報を含む資料の取扱いについて年度初めに職員に周知し、保存場所から移動する際は持出記録で管理している。退職職員も誓約書に基づき遵守している。
5-5	学校保健法、労働基準法などの各種法令の遵守状況	B	学校保健法・労働基準法などの各種法令に基づき労務管理を行い、法令遵守している。労働管理関連の研修会に積極的に参加している。
<b>6 研修（資質向上の取組）</b>			
6-1	保育研究の継続的实施など、指導改善の取組の状況	B	園内研修では継続的な課題を設定し、指導改善の取り組みを行っている。
6-2	園内研修・園外研修の実施・参加の状況	A	県私幼連、市私幼連、真宗保育連盟などが計画する園外研修会に積極的に参加するとともに、外部講師を招いて様々な園内研修も実施している。
6-3	園内における研修の実施体制の整備の状況	B	研修委員を中心に園内研修を計画し、実施している。

評価項目	結果	理由
<b>7 教育目標・学校評価</b>		
7-1 教育の目標の設定と自己評価の実施状況	C	平成20年度より自己評価を実施している。評価項目の選定などに課題が残り、改善していきたい。
7-2 学校関係者評価の実施状況	D	平成28年度は実施をしなかった。今後、実施できるよう努めたい。
7-3 学校に対する保護者の意見・要望などの状況	B	連絡帳や個別に相談を受けたり、PTA役員会において意見や要望などをお聞きしている。今後は、アンケートなどの方法でも行えるよう検討していきたい。
<b>8 情報提供</b>		
8-1 学校に関する様々な情報の提供の状況	B	ホームページを中心に、幼稚園の特色や子育て支援活動の情報を提供している。
8-2 学校評価結果の公表状況	B	平成20年度以降、ホームページ上で自己評価を公表している。平成28年度分は平成29年4月に公表する予定。
8-3 保護者を対象とした教育活動などに関する情報の提供の状況	B	保護者に向けた教育講演会を実施したり、園だよりで保健や食育に関する情報を提供している。
8-4 広く周知するための情報提供手段の工夫の状況	A	コンパクトな園だより冊子で、保護者に見やすいよう工夫している。メール配信で月間予定や不審者情報を発信し、手軽に内容を確認できるよう工夫している。平成24年度から緊急連絡をスムーズに行うため、メール配信を中心に切替。ホームページでも情報提供している。
<b>9 保護者・地域住民との連携</b>		
9-1 学校運営への保護者・地域住民の参加や協力の状況	B	PTA活動を通して、保護者に行事運営などに協力して頂いている。また、読み聞かせボランティアでは、在園児保護者や卒業生保護者の方などに協力して頂いている。
9-2 地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源の活用状況	B	幼稚園の周囲の自然に触れ親しみ、そこで拾った実や葉を使った制作をするなど行っている。また、地域の清掃や福祉施設慰問を行うなど、地域との関わりを大切にしている。
<b>10 子育て支援</b>		
10-1 地域や保護者の実情や要望による子育ての支援活動の実施状況	B	未就園児向けの親子教室や幼稚園開放を行い、地域の子育て支援のひとつとして活動している。
10-2 他の関連機関との連携状況	B	未就園児向けの親子教室では、保健師を招いて保護者向けの講義を行うなど、他の関連機関と連携している。
<b>11 預かり保育</b>		
11-1 保護者の実情や要望による預かり保育の実施状況	A	朝は7時50分から、夕方は18時30分まで延長預かり保育を実施している。第1・3・5土曜午前中に休業日預かり保育、夏休みや園行事による振替休日等に特別預かり保育を実施し、様々なニーズに応えている。平成29年度より、卒業式後に年長児の預かり保育を実施するよう検討中。
11-2 園や教職員による受入れ態勢の状況	B	教職員のローテーションや専任教員の配置により、受入れ態勢を整えている。
11-3 教育課程との関連、家庭との連携などへの配慮の状況	B	預かり保育は遊び中心の内容となるが、その時期に合った内容を提供するよう心掛けている。必要に応じてクラス担任が保護者と直接話ができるよう配慮している。

評価項目		結果	理由
12 教育環境整備			
12-1	施設・設備の安全・維持管理のための点検・整備の取組状況	B	施設・設備の安全・維持管理のため、園舎の耐震化対応、アスベスト調査など、必要に応じて整備を行っている。
12-2	遊具・用具・図書などの整備の状況	B	安全点検計画に基づき、遊具・用具の整備を行っている。図書は毎年追加し、充実している。

4. 学校評価の具体的な目標・計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	子どもが主役の幼稚園を具体的な目標として掲げ、5つの副題を設定した。 5つの副題と学校評価マニュアルを参考に、各評価項目を設定した。 各評価項目の達成および取組状況から総合的に判断し、ほぼ達成できていると判断した。

5. 今後取り組むべき課題

自己評価でCやDの結果となった項目は、今後、重点的に取り組んでいく必要がある。各種計画やマニュアル類を現状に合わせて整備していく必要がある。評価項目の選定が難しく結果的に昨年度と同様となった。今後精査していく必要がある。また、自己評価だけでなく学校関係者評価の実施準備も進めていきたい。また、学校評価の取り組みに対し、十分な時間が確保できていない現状があり改善すべきである。ただ、他の取り組みとの優先順位を考慮すると、現状程度の取り組みとならざるえない状況である。

3. 4. の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である